

大自在

「東京砂漠」。1964年の夏、アジア初の五輪開催を控えた東京は異常渇水が続き、こう呼ばれたそう。へオリンピックまで、あと80日もないんだぞ。こんな状態では困るんだ。本紙夕刊で今月半ばまで連載していた幸田真音さんの小説「この日のために」に、時の首相の叱咤が載っていた▼高台や都心のビル街では蛇口をひねってもほとんど水が出てこない。地域による不公平感も高まった。突貫工事による導水路の完成などで、五輪には間に合わせる事ができたが、教訓を残す▼「水の惑星」と称される地球だが、その水の97・5%は海水で、人間が利用しやすい状態にある水は0・01%にすぎない。水資源を500リットルのペットボトルとすれば1滴分。世界では5人に1人が、きれいな飲み水を得られない▼世界規模で水不足、水質汚濁など水をめぐる問題は深刻化している。水は食糧生産と直結する。新興国の人口増や経済成長で、水の需要はさらに増え続ける。地球温暖化は、この星の水循環のバランスを崩す▼「命の源」である水の大切さをより深く理解し、節水と水保全を訴えようと、県消費者団体連盟環境部が先ごろ、アンケートを通じた啓蒙活動を行った。市民の意識は、決して高いとはいえなかったようだ▼2割の人が「水資源に限りはない」と回答していた。日本列島は雨が多いから、いくら水を使っても大丈夫と思ひ込む向きも多い。だが、狭い国土に多くの人口を抱えることから、1人が使える水の量は世界平均以下とされる。「東京砂漠」は昔話と言いつてもいい。

2016.3.30

2016年3月30日 朝刊

①「東京砂漠」とは、何のことですか。

②「水の惑星」と言われる地球が、水を大切にしないといけない理由を書きましょう。

③水を大切にするために、自分でできることを書きましょう。

年 組 名前

(小学校高学年・中学校・高校 社会・理科・総合)